



善行中 学校だより 12月②

2020年(令和2年)度
藤沢市立善行中学校 学校だより
校長 小林 秀夫

「子年 鼠 丑年」

「あっという間に師走」と思いきや、すでに本年も大晦日が間近、「ねずみさん」から「うしさん」へのバトンタッチが近づいてきました。そこで、来年の干支は「丑」。おっとりとした草をはむ、のんびりとした姿が思い浮かびますね。でも実はとても力持ちで、日本では昔から荷物を運ぶための労働力として、人の生活に欠かせない大切な動物でした。



「6組クリスマスリース」

このような働きぶりからでしょうか。「耐える」、「これから発展する前触れ・芽が出る」というような年になると言われています。結果を求める時期ではなく、結果につながる道をコツコツと積み上げていく時期とされているようです。

学校だよりの最後くらい「コロナ」の話は避けようと思いましたが、どんな状況になろうとも、先を急がず一步一步着実に物事を進めることを大切にしたい年ですね。

黙々と目の前の事をこなすことが将来につながる、と夢をもって進みましょう。

「夢」といえば、過日ご逝去された物理学者でノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊氏の言葉を思い出します。

「研究者ならば、今は駄目でもいつかは実現してやるという研究の卵を、三つか四つ考え続けよ。」

私はこの言葉を次のように捉え直しています。

「人ならば、今は駄目でもいつかは実現してやるという『夢』の卵を、三つか四つ温め続けよ。」

来年は焦らず、心を込めて「夢」を温め続けたいものです。

結びとなりますが、4月から本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。良いお年をお迎えください。

「投げた・受けた・避けた・真剣、爆笑のドッチボール・ドッチビー大会」

冬至の翌日。寒いですが、よく晴れた行事日和。全校生徒が躍動しました。生徒会主催(旧生徒会本部役員)のスポーツ・レク大会。会長の講評からは「～みんなで、笑顔で楽しむことが出来たことがうれしい。～ 来年もみんなで行事を楽しんでください...。」と。

今年度活動が十分に出来なかったことを伝えながらも、晴れやかな言葉に感動しました。

生徒のえがおと歓声がすてきなレク大会でした。



会長の話を真剣に聞く1年生

学校における新型コロナウイルス感染症対策に関する変更について(お知らせ)配付について

このことについては、先日全家庭に配付させていただきました。最新の情報となりますので、ご確認の上、対応よろしく願いいたします。学校と家庭での連絡を密にして、感染対策を強化していきましょう。